



**HamaMed-Repository**  
浜松医科大学学術機関リポジトリ

Title	3 歳健診での肥満予防の今後の展望
Author(s)	市川, 剛; 有阪, 治; 中山, 幸量; 長沼, 純子; 小山, さとみ; 吉原, 重美
Citation	DOHaD 研究 6 (1) : 57
Issue Date	2017 年
Type	出版社版
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/3268">http://hdl.handle.net/10271/3268</a>
Right	

## 3 歳健診での肥満予防の今後の展望

市川 剛<sup>1)2)</sup>、有阪 治<sup>2)</sup>、中山幸量<sup>1)2)</sup>、  
長沼純子<sup>1)</sup>、小山さとみ<sup>1)</sup>、吉原重美<sup>1)</sup>  
獨協医科大学小児科<sup>1)</sup> 那須赤十字病院小児科<sup>2)</sup>

【目的】肥満は社会問題となっているが、肥満はトラッキングする生活習慣病であることから、予防が重要である。我々は日本で1歳半と3歳健診の実施率が高いことに着目し、この時期のBMI上昇が小児肥満のリスクの上昇やその後のインスリン抵抗性を悪化させることを明らかにしてきた。そこで栃木県大田原市で2013年～3歳健診全受診者を対象に1歳半～3歳にかけてのBMI上昇を主なリスク因子として、5歳まで多職種で連携して生活習慣を改善する介入を行っている。今回はその結果とともに今後の展望につき解説する。

【方法】対象は2013年4月から2016年3月までに大田原市で3歳健診を受診した児1674名。3歳健診で①1歳半と比較してBMIが0.5以上上昇かつ3歳健診のBMI 16.8～18.5、もしくは②3歳健診でのBMIが18.5以上の場合は1歳半と比較してBMI上昇を将来肥満のリスクとし、①、②のいずれかを満たす児をハイリスクと判定した。その結果、91人(5.4%)がハイリスクと判定され、内46人(2.7%)が実際に当院を受診した。その後、多職種で5歳まで4ヶ月毎に経過観察し、BMI%の改善率などを検討した。

【結果】3回以上経過観察できた児は、45人中39人であり、39人中34人(87%)でBMI%が平均9%改善した。

【考察】我々は出生コホートで12歳時に肥満児の一群を除外すると集団のインスリン抵抗性が低下するというデータを持っている。今回の3歳健診のハイリスク児への介入で多くの児のBMIが改善すること、体格はトラッキングしやすいことを合わせると、本介入のような試みが集団のインスリン抵抗性を将来にわたって低下させるものと考えている。

【結論】3歳健診での肥満予防介入で将来の肥満を予防・減らすことができる、将来の集団のインスリン抵抗性の平均値を低下させることができる、すなわち、種々の疾患(NCD、がんなど)発症の原因となる高インスリン血症を抑制できると考えられる。